

雲林寺報第36号

慈恩

令和6年1月発行

改歳の吉辰、謹んで新春のお慶びを申し上げます
一五五九年（永禄二年）に当地にて開山された雲林
寺も本年で四六五年の年輪を刻むこととなります。
不尚私を含め歴代の三十人の住職が、その時々で壇
信徒皆様のご法愛にて護持されたこと、今更ながら、
感銘を受けること絶大であります。

中ぞゆかしき 南無の一声

四六五年前に生きた人も、現在を生かされている我々も、私達の中には「仏のころ」があります。ところが、信じるものを見失い、迷い苦しむことがあります。そのような煩惱にとらわれると他を傷つけ争い合うこともあります。救いの手立ては仏の心に立ち帰ることです。

「あなたの中にも私の中にも仏がある。だから信じ合える」

と手を合わせ続けることです。

仏の手と衆生の手を合わせると「私という存在は有難くも尊い生命をいただいて生きている」と思い出し、仏とわれが一つになって「南無」という祈りの一声となるのです。

お釈迦様は、天地一杯の生命、それを仏と名付けられました。その仏に自分をあずけてお任せする。そうすれば苦しみや悲しみと寄り添いながらも自分らしく生きられるのです。

今、世界には苦しんでいる人や誰かの為に頑張っている人がたくさんいます。私はそんなすべたの方々に必ず救いがあると信じて今日も手を合わせます。

末筆乍ら、檀信徒皆様方の萬福多幸とご安寧を切に祈念して年頭のご挨拶と致します。

省吾

合掌

本年も宜しくお願い致します。
日頃より雲林寺護持会の活動にご理
解を賜り誠にありがとうございます。
長野地区の割田伸男様が総代に任
命されたのでご報告させて頂きます。

副会長

副会長

會計

監事

【寺世話人】

長野原

大津

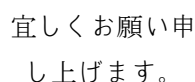
羽根尾

与喜屋

林

北軽井沢

櫻井芳樹	黒岩元	佐藤良平	宮崎透	櫻井輝久	割田伸男	岩木夏雄	宮崎雅夫	長谷川浩一	酒井保治	浅見良雄	櫻井敏雄	湯本茂	嶋村久夫	山口義秋	黒岩清次	中村剛	小林寛	小林柳一	萩原國男	豊田清	青木博文	神戸久利	斎藤光善	田島敏治
山口次夫	萩原宗仁	永井芳司	田村俊樹	唐沢明雄	篠原博史	塩野英介	小林弘	市村真	湯本完司	橋爪満男	篠原憲一	岩田紀重	小林一雄	宮田満	須原幸夫									



8月14日 施食会法要

ご先祖さまや亡きご家族がほんのひととき自宅へと帰ってくるお盆。
雲林寺ではこの時期に伝統的な「施食会」法要をいとなみ、皆さまの大切な方々への盆供養を合同で行います。
年回に当たられている施主家様の塔婆供養をし、皆様に御焼香をして頂いております。



9月24日 満蒙拓魂之塔で慰霊法要

北軽井沢を代表する青々としたシタスやキャベツ畑に酪農の風景。これらはわずか70数年前、戦争で全てを失ってこの地に辿りついた人々が、**荒地を一から切り拓き、作り上げた**ものです。
群馬満蒙拓魂之塔が建立されたのは1974年。毎年この時期に誤った国策のために異国の地で落命した人びとや満州に関わってお亡くなりになられた人の供養を行っております。

11月17日 群馬県防災ヘリ墜落事故 殉職者追善供養

2018年8月10日、群馬県の防災ヘリコプター「はるな」が中之条町の山中に墜落するという、大変、痛ましい事故が発生しました。
吾妻仏教会の僧侶15名で殉職者の追善供養を吾妻広域消防本部内で修行させて頂きました。

お亡くなりになられた群馬県防災航空隊員と消防職員9名に深く哀悼の意を表しますとともに、御遺族並びに関係者の皆様に、心からお悔やみを申し上げます。



令和5年後期 活動報告



9月21日 戦死病没者慰霊法要

雲林寺境内にある忠霊塔は、とても身近な戦争遺跡です。忠義や忠誠をもって戦争に出兵し戦死した者の霊に対して、称え続けることを象徴として表す塔で、戦死者の**納骨堂**も備えております。
忠霊塔を供養することは、平和の尊さや、人間の尊厳、命の大切さ、そして戦争に出兵し戦死した人たちの『**どうして命を落とさなければならなかったのか**』というメッセージを考える機会になるのではないのでしょうか。



優勝	野口 勉様	6 位	橋詰俊英様
準優勝	松本次男様	7 位	川嶋 仁様
3 位	佐藤良平様	8 位	長谷川浩一様
4 位	割田伸男様	9 位	唐澤明雄様
5 位	芝田尚登様	10 位	真下 豊様

ベストグロス 市村隆宏様



第十二回雲林寺

親睦ゴルフコンペ

昨年十月九日、草津カントリークラブにて親睦ゴルフコンペが開催されました。あいにくのお天気でしたが、三十八名の参加者により、親睦を深めて頂きました。また、沢山の方に素敵な景品をご寄贈頂きましたこと、感謝申し上げます。是非沢山の皆様のご参加をお待ちしております。

お地蔵さま

道端でふと見かけ、身近に出会うほとけさまといえ、きつとお地蔵さまを思い浮かべるのではないでしょうか？お地蔵さまは、正しくは「地藏菩薩」と呼ばれる「菩薩」様です。

お地蔵さまは、私たちの苦しみや悲しみを、代わって自ら引き受けようとされる「代受のちかい」をなされ、共に分かち合ってください。

私たちは生老病死の四苦に出会い、その苦しみや悲しみの中で、**生命、健康の有難さ**を痛感します。

お地蔵さまはお堂の外で、私たちが住む場所を見守る菩薩様として、数多く建立されています。

あらゆる場所にお地蔵さまがいてくださることは、とても有難いことなのです。より近いところで、私たちの生活を見守りながら、私たちに仏のみ教えをお示しくださるお地蔵さま。

日頃、何気なく通り過ぎてしまいうお地蔵さまに手を合わせてみませんか。



本堂にお地蔵様ガチャを設置しています

いま、君に

つたえたいこと。

「修」とは実践修行

「証」とは悟り

「義」とは意義

という意味で、曹洞宗の教えが体系的にまとめられている『修証義』の教えを子どもたちにも理解できるようにイラスト入りで構成された冊子です。年頭のご挨拶まわりでお配りさせていただきます。



梅花流たより

コロナ禍を経てから初めての梅花流群馬県奉詠大会が昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）を会場に開催されました。今年は六十五周年の節目であり新宗務所にとっても初めての記念すべき大会です。午前の部はいつものように開会式から登壇奉詠と進み私達吾妻六教区は第五番目でした。詠題詠頭は依田たつ子さん、篠原禮子さんがおつとめくださり、難しいと言われている「達磨大師御詠歌」を登壇された講員さんの団結力により達磨様の御遺徳を感じられるような奉詠となったと確信しております。本堂にありがとうございます。

午後は「御詠歌とまなびと笑顔」と題してご法話があり、又清興として三遊亭王楽師匠の落語を堪能することができました。

閉会式では「同行御和讃」「まごころに生きる」を全員で合唱し再会を誓いました。三年のブランクから今年の開会までの道のりをこれ程長く感じたことは未だかつて無いことです。

轟 美代子



雲林寺梅花講では月2回、2時間程度本堂にて練習会を行っています。（参加費無料）練習の成果は、寺の行事や梅花流大会等で発表します。初心者の方も参加できます。是非お気軽に見学に来ませんか？

ひとすじのひかり

千川弘枝

「出逢いも別れも抱きしめて生きてる今を愛して行こう」「出逢い」と「別れ」数々の縁によって引き起こる人生の節目そして今生きていることの尊さや有難さ大切に生きていく姿勢この世の不幸を一人で背負ってしまったりのような気になって後ばかり下ばかりを見ていた私にひとすじの光がさした梅花流詠賛歌の一節です。

この歌をお唱えできるようになりたいと梅花講の門を叩きました。先生も諸先輩方も何もわからない私を温かく迎え入れてくださいました。

毎月二回の練習会もできるだけ参加し指導していただき、検定も受けられるようになりました。先日は皆さんと共に県大会にも参加させていただき、胸がいっぱい頭の中は真っ白になりましたが登壇しお唱えさせていただきました。とても良い経験がありました。

これからもがんばって、皆様のご指導のもと、続けていけたらと思います。そしていつか大切な人に私のお唱えが届いてくれたら幸いです。



※節分会の詳細は別紙で御案内致します。